



# 栃木医療センター 広報誌

No.47 2021 October



## 理念

## 信頼 貢献 協働



### Contents

- 診療科紹介（脳神経外科） ..... 1
- 特定行為研修修了看護師のご紹介 ..... 2
- 手術室での看護業務 ..... 3・4
- 2021年 栃木医療センター地域連携講演会について ..... 5
- 連携医紹介  
（医療法人賛永会 さつきホームクリニック） ..... 6
- 感染防止／交通のご案内 ..... 裏表紙

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

診療科

紹介

# 脳神経外科

脳神経外科部長 倉前 卓実

## 当科の取り組み

ここ5年は、特に、脳血管障害を中心に診療体制を整え、その成績向上に努めてまいりました。開頭手術はもとより、tPA静注療法、血栓回収療法といった緊急カテーテル治療も24時間体制で行うようになり、さらに、脳卒中ホットラインを採用し、ここでも24時間365日、我々、脳神経外科医が直接、開業医の先生方や救急隊の方々から、事務員や他科医師を介することなく、電話1本で、症例をお受けするという体制を取っております。脳卒中ホットラインの採用は、院内体制を整え、治療精度の向上を目指してきた我々が、次のステップと、院外の方々へ目を向けられるようになった結果で、今後はさらに、その周知、広報をと考えております。

そして、内視鏡システムが一新されることとなり、それは治療精度の向上に寄与するであろうし、癌治療認定医が仲間入りし、悪性腫瘍の治療幅が広がりました。

また、従来、当科の特色でもあった、三叉神経痛や脳脊髄液減少症といった疾患に対しましても、その治療を洗練させ、継続しており、県外からの紹介もいただくようになっております。

治療成績の向上はもちろんですが、開業医の先生方、地域の方々のために窓口を広く、優しくあろうと、そのために何ができるか、そうしたことも真面目に考え、取り組んでいきたいと思っております。

### 診療体制

副院長 石原 雅行

脳神経外科学全般、神経内視鏡治療

脳神経外科医師 金澤 徳典

脳神経外科学全般、ボツリヌス療法

脳神経外科医師 荻野 雅宏

脳神経外科学全般、てんかん外科

脳神経外科部長 倉前 卓実

脳神経外科学全般、脳血管内治療

脳脊髄液漏出症治療、機能脳神経外科

脳神経外科医師 唐津 皓介

脳神経外科学全般



副院長 石原 雅行 (右下) / 脳神経外科部長 倉前 卓実 (左下)  
医師 金澤 徳典 (右上) / 医師 唐津 皓介 (左上)

# 特定行為研修修了看護師のご紹介

## 特定行為研修修了看護師 丸山 沙緒里

当院には、特定行為研修修了看護師が複数名います。特定行為は、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合は、高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされ、実践的な理解力、思考力及び判断力が求められます。医師の指示を受けた手順書を基にそれぞれ自分が修了した分野の特定行為を日々実践しています。現時点で実践可能な特定行為は、「褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」「気管カニューレ交換」「人工呼吸器からの離脱」等です。在宅医療での普及が急がれていますが、特定行為研修を受けた看護師が、患者さんの状態を見極めることで、タイムリーな対応が可能になり、病院内で特定行為を行うメリットもあります。

私自身は、「感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与」「持続点滴患者の高カロリー輸液の投与量の調整」等、5つの特定行為の研修を修了しました。抗菌薬適正使用支援チームの対象者に対して適正な抗菌薬の使用を主治医へ提言しています。実際に患者の元へ行き、発熱や活気の有無、食事摂取量の確認、体に入っている点滴や管などの観察を行い、感染している部位はどこなのかを確認し、感染したと思われる管が抜けている事を確認した上で、医師へ適正な抗菌薬の種類と投与期間を提言しました。他にも栄養サポートチームの対象者に対して栄養に関する必要な計算を行い、足りていない栄養成分を主治医に提言しました。実際に患者の元へ行き食事に関する思いを傾聴し、今後の生活で食事に関して困りそうな課題を担当看護師と一緒に考え、自宅へ帰った時にも実践可能となる栄養の取り方を栄養士と相談しました。

患者さんや家族の立場に立った分かりやすい説明が出来、「治療」と「生活」の両面からの支援の促進に貢献します。看護師ならではの視点で患者さんと関わり、特定行為を実践した後もサポートしています。特定行為研修修了看護師は、働き方改革の中で医師のワークシェアリングを担うだけでなく、看護師ならではの視点で診療に関わる事で、より患者さん中心のチーム医療の実践に貢献します。



# 手術室での看護業務

手術室看護師長 平山 由希子

手術室は7室（バイオクリーンルーム1室、陰圧対応手術室1室）あり、外科・整形外科・脳神経外科・小児外科・泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・歯科口腔外科の手術に対応しています。各科医師・麻酔科医・病棟・外来・中央材料室・事務部門と連携し、手術が安全におこなえるよう日々心掛けています。

エビデンスに基づいた質の高い手術室看護を提供するため、手術室クリニカルラダーに沿った教育を行っています。今年度は3名の新人看護師を迎え、教育チームを中心にスタッフ全員で見守るとともに、指導を通してお互いに成長できるように各自が努力しています。また、看護部教育部会と協働し、各部署新人看護師の技術習得のため麻酔科医師の協力のもと挿管介助演習を担当し部署を超えた教育にも力を入れています。

普段は笑いの絶えない明るく楽しい職場ですが、手術中は引き締まった緊張感あるプロフェッショナルの表情に変わり手術室看護師としての役割を全うしています。



手術に使用する器具の事前確認。手術によってセット内容が違うので、しっかり確認します。



新人看護師と先輩看護師、お互い成長できるように、仲良くがんばっています。



手術中の処置に使用する器具を医師に渡したり、補助をします。緊張の一瞬です。



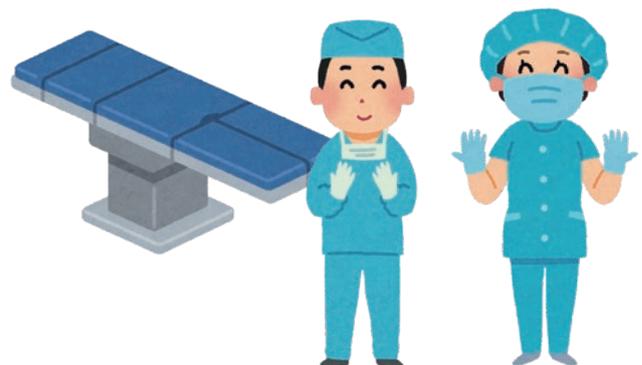
手術棟内の廊下です、様々な機器が入り出るのでかなり広く作っています。



ここで手術前の手指洗浄を行います。全く触らずに洗浄、消毒が可能です。



手術室。一般のイメージよりもかなり広く作られています。



# 2021年 栃木医療センター地域連携講演会について

地域医療連携係長 佐藤 博子

新型コロナウイルス感染症流行により昨年度は地域医療連携医大会を開催することができませんでした。今年度7月29日（木）にWEBによる地域医療連携講演会を開催いたしました。

田村院長の開催挨拶に続き、矢吹内科副部長による「地域医療センターで取り組んできたコロナ医療」、足立地域医療連携室長による「コロナ時代の地域医療連携」の講演が行われました。矢吹内科副部長より当院のコロナ患者受け入れや診療について、情報提供および現状が講演されました。足立地域医療連携室長からは地域医療連携室の役割・紹介状況およびコロナ渦における当院の診療体制について説明され、地域医療連携医の皆様や連携施設の方々からのご要望に応えられるよう今後も努力していくと話されました。

今回、医療連携機関や当院職員より100人近い方々にご参加いただき、心より感謝申し上げます。また参加事前登録にご協力いただきありがとうございました。

これからも地域の先生方を訪問させていただき、よりよい連携体制づくりに向け努力する所存です。また、感染状況により集合が困難な場合でも、WEBを活用し多くの皆様に参加していただける研修等を企画していこうと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年 栃木医療センター地域医療連携講演会 (WEB)

## 新型コロナウイルス流行と当院の感染症対策

～栃木医療センターで取り組んできたコロナ診療～

### 2021年 7/29 (木) 19:00～

#### 事前登録方法

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_zIGjt6HmS\\_uzio9kqR2ffg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_zIGjt6HmS_uzio9kqR2ffg)

右のQRコード、もしくはアドレスをご入力いただき、事前登録をお願い申し上げます。またご登録の際はお手数ですが、氏名・メールアドレス・医療機関名のご入力をお願い申し上げます。



- ①『ご挨拶』  
院長 田村明彦
- ②『栃木医療センターで取り組んできたコロナ診療』  
内科副部長/総合内科医長 矢吹拓
- ③『コロナ時代の地域医療連携』  
地域包括ケア推進部長/地域医療連携室長 足立太一

■ 総合司会：副院長 石原雅行

WEBセミナーに関するお問い合わせはこちらまで  
独立行政法人 栃木医療センター 代表TEL 028-622-5241

# 連携医紹介



## 医療法人賛永会 さつきホームクリニック

理事長 月永 洋介



さつきホームクリニックは、2016年4月に開院し、今年で創業5周年になります。昨年は鹿沼市と益子町にも診療所を開設しました。「医療の力で暮らしを豊かに」という理念のもと、ご自宅に戻られた患者様が安心して暮らせるよう、医療の力を使ってサポートしていきます。訪問診療だけでなく、訪問看護や訪問リハビリテーションなども展開しております。医療・介護を通じた幅広いケアを目指し、医師だけでなく多職種によるシームレスなケアを行うため、チームを作って対応しています。

ご自宅で安心して療養するには、患者様それぞれに異なった不安や課題があります。私たちは、そのそれぞれに合った方法を多職種で見つけ、何よりご本人の想いに向き合いながら、患者様・ご家族に寄り添うケアを目指しています。そのためにも、当院の体制強化はもちろん、他事業所や病院などの外部機関とも連携することで、

地域医療ニーズの高まりに応えられるよう、地域の課題解決に取り組んでまいります。

特に「訪問診療」は、診療科や病名の制限はなく、お一人での通院が困難な患者様のご自宅や施設へ定期的に訪問し、医療的ケアニーズの高い方から高齢の方の健康管理まで、幅広いケアを行っています。緊急時には24時間365日体制で対応し、必要に応じて入院や搬送対応等も可能です。また、在宅緩和ケアも積極的に行っており、ご自宅や施設で最期まで暮らせるよう、できる限りのケアを提供できるよう心がけております。

訪問診療のほか、医師の指示に基づいた医療的なケアや療養上のお世話をを行う「訪問看護」、住み慣れた場所で歩行、食事、外出訓練などを行う「訪問リハビリテーション」、管理栄養士による「訪問栄養食事指導」、生活上の悩みを医療ソーシャルワーカーやケアマネジャーに相談できる「医療相談」など、患者様のご希望に応じて様々な在宅サービスをご提供します。

私たちは、そうした在宅サービスを通じて、ご自宅で過ごす時間を少しでも安心した良い時間にできるよう、患者様の価値観・人生観に共感しながら、過不足のない医療を提供できるように努めてまいります。



## ご案内

訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションについて、お気軽にご相談ください。

- さつきホームクリニック
- さつきホームクリニック鹿沼
- さつきホームクリニック益子
- さつき訪問看護ステーション
- さつき訪問リハビリステーション
- さつき Care (居宅介護支援診療所)



さつきホームクリニック  
ホームページ

<https://www.satsuki-hc.com/>



# 新型コロナウイルス感染症に対する感染対策

## ☆正しい手指衛生をしましょう

- <方法> ①手洗いは流水で手を濡らし石けんで泡を立ててから手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。  
②アルコール消毒は最初に爪先をまんべんなく消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。

<タイミング> 帰宅時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手が汚れた時など



## ☆正しくマスクを着用しましょう

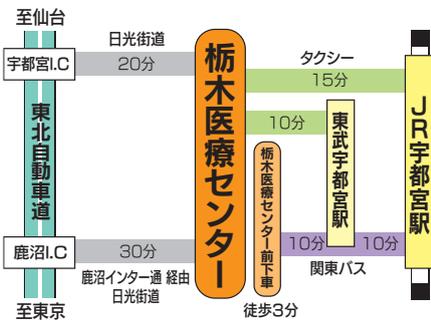
- <着け方> 顔とマスクの隙間がないように、鼻、頬、顎に合わせて鼻、口を覆う。  
<装着中> マスクの表面にはなるべく触れないようにする。  
会話をするときにはマスクを外さない。  
<外し方> ゴムの部分を持って耳から外し、マスク本体に触れないように捨てる。



## ☆3密を避けましょう

- ①換気の悪い密閉空間 ②多数が集まる密集場所 ③間近で会話や発声をする密接場面  
☆流行地域への不要不急の移動は避けましょう  
☆体調が悪い場合は、仕事お休みましょう  
☆ワクチンを接種後も基本的な感染防止対策の徹底をしましょう

## 交通のご案内



### 発行人

独立行政法人国立病院機構  
栃木医療センター  
院長 田村 明彦

〒320-8580  
栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37  
TEL. 028-622-5241  
FAX. 028-625-2718  
URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

